

田んぼしストラン

5年

伊藤 瑞穂(女)

「田んぼに足をひばられた。長ぐつの中にも水が入ってきた。だれか助けて。」

これは、田んぼへ生き物とりに行った時のできごとだ。カエル達が

「お前なんかにつかまるわけないだろう。おれはトノサマだぞ。」

と笑うように鳴いている。くやしいのでつかまえに田んぼに入り、こけてしまったのだ。

田んぼは、きたないしどろどろしているのできらいだった。けれど、生き物とりをしていたら、少しづつきれいな気持ちがうまれてきた。田んぼ友達ができたからだ。

一番の友達は、金色の目をしたシシイゲルアオガエルだ。私が初めてつかまえたカエルだからだ。手のひらにのせると、にらんでくる時もあるけれど、なついてくれ、幸せな気分になった。

二番目の友達は、コイムシだ。オスが、たまごを背中に背おって子育てするのがおもしろいからだ。コイムシは、口がストロリー

になつていて、おたまじやくしの首のところ
へ口をさしこんで食事をしていた。田んぼの
中で生きるまびしさを教えてくれた。
三番目の友達には、オニヤンマのヤゴだ。ヤ
ゴは、アゴがのびてえさを取ったり、おしり
のウオータージエツトです速く移動したりす
るところが、すごいからだ。

田んぼは、いろいろな生き物達がひしめき
あつて生きている宝箱であつた。そして生き
物達のしストランでもあつた。

田んぼの友達は、私の気分がしずんでいる時
には、元気をもらう。生き物と遊ぶといろい
ろな発見があり、ほかほかした気分になる。
さて、この田んぼの水はどこから来るか不
思議になつた。そこで田んぼの水路をたど
て行つたら、山の中へ行つた。地面のぐち
ぐちの所で水がもえた。だから、水は山の
地下からでてきていると思つた。生まれたて
の水は、とてもきれいで冷たくて、飲みたく
なつた。

そして、山と田んぼは、つながっていたの
だった。田んぼを守るためには、山を元気に
していかないといけないことに気がついた。
山を元気にするために何をしたらよいかまだ
分からない。でも水が山で生まれてくること
はたしかだ。